



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30-13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
		電話 0235 (2) 5775

会長	小松	松川	広穂
幹事	皆上	川野	英三
会報委員	高内	野橋	二郎
	板	山	二
		垣	次

No., **1021** 1979. 8. 21 (火) (雨) No..8

ウインター紹介

齋藤 五郎八君	旅館	一温海R.C	
伊東 太一君	貸倉庫	一上ノ山R.C	
上野 十九治君	空調設備	菅原 幸雄君	} 鶴岡西R.C
大川 俊一君	海上保険	菅原 松雄君	
三浦 正志君	自動車車検	阿宗 健一郎君	
井上 彬君	壁材販売	菅原 年雄君	
		菅原 年雄君	

会長・幹事報告

小松 広穂 君

1. 石黒慶之助君がポール・ハリス・フェローになりました。メタルとバッヂがR.Iより伝達されて居ります。
2. 悲しい御知らせですが、8月16日バストガバナーの村上正徳君が亡くなりました。

LET SERVICE LIGHT THE WAY

奉仕の灯で 道を照らそう

ちなみに当時の当クラブの会長池内方平君、幹事中山吉郎君共に今は亡く、何か因縁めいたものが感じられます。謹んで御冥福を御祈りします。

8月18日 弔電打電済

3. 9月15日酒田クラブ創立20周年記念式典には10名、10月13日地区年次大会へも10名は是非参加したいと考えております。事務局を通じて可能と思われる方に勧誘して居りますので是非御協力下さい。

皆川英二君

1. 新庄R.C

創立20周年記念式典ご案内

とき 9月16日 於 新庄信用金庫本店

登録 12:00~13:00 式典 13:00~15:00 祝宴 15:20~17:00

登録料 ¥10,000円

2. 例会時間・場所変更のお知らせ

- (1) 酒田R.C 8月29日の例会を、ゆかた会のため8月29日 P.M 6:00
於 酒田産業会館 ¥2,500 (会費)
- (2) 酒田東R.C 8月23日の例会を、ゆかた会のため8月23日 P.M 6:00
於 御園別館 ¥4,000 (会費)
- (3) 鶴岡西R.C 8月31日の例会を、職場訪問のため8月31日 P.M 4:30
於 善宝寺「宝珠庵」

3. 会報到着

村上R.C、鶴岡西R.C

4. 1979~1980年全日本ロータリークラブ会員名簿購入ご希望の方は事務局へ申し込むこと。

◆ 会員スピーチ

経済展望

菅健君

野村総合研究所より「20ドル原油時代の経済展望」と題するレポートが参りましたので、それによりスピーチ申し上げたいと思います。ご参考になれば幸いです。

爛熟局面を迎えた日本経済

景気は昨年秋以降拡大傾向を強め、国内需要は個人消費、設備投資、在庫投資を中心に年率10%を超えるものとなり、鎮静を続けていた物価も上昇に転じ、国際収支も赤字に転化するなど景気ははっきり爛熟局面の様相を呈しはじめました。又、ミクロの実態面でも第1次石油ショック時点の昭和48~49年と様相が類似しています。物価は今回の景気回復過程では極めて安定した非常に良い動きを続けましたが、昭和53年秋以降超大型財政(国債の大量発行と財政投資増大)特に昭和53年度7%成長達成のため過度の財政の拡大政策により需給ギャップが一挙に縮小し、物価上昇の基盤をつくりました。これに加えて、円安と石油の大巾値上げにより物価は警戒水域に入りました。過大な景気拡大政策は輸出自粛と緊急輸入策と共に国際収支を大巾黒字から赤字に一変させました。今年4~6月の貿易収支は約14億ドルと前年同期の65億ドルの4分の1以下となり、経常収支は約7億ドルの赤字(前年同期48億ドルの黒字)となりました。国際不均衡拡大のなかで、わが国への黒字減らし要請が高まり、通商摩擦激化

がみられましたが極めて短期間に調整がとげられました。

従来の爛熟局面と較べてブーム感が乏しいことから景気の現状判断が分かれ、ひいては経済政策転換時期尚早とする見方も出ました。しかし経済を取りまく環境の変化を考えたとき、いろいろの判断要因から景気の天井は低いと判断せざるを得ません。高度成長時代と低成長時代の相違はこの天井の高低にあります。現状は「低成長経済下でのブーム局面」と見るべきであり、景気は爛熟期にあり、転換点に近づきつつあると判断しております。

始まったミニショック

景気の転換はこの様な自律要因と石油制約から来る海外要因の双方によってもたらされようとしています。石油制約下の経済という点で今回も前回の石油ショック同様に、物価上昇・景気後退・国際収支悪化という影響から逃れることは困難であります。しかし前回と今回の石油ショックはその規模とショック調整に要する期間については別であり、その相違点は次のようになります。

1. 量的側面

量的側面では自由世界の石油消費量の増加テンポをみると、前回のショック前5年間で7%増であったのに、今回は4%の増加にすぎない。供給制約に直面した時の衝撃度は時速70キロと40キロで走っている自動車が急ブレーキをかけた時と同様、今回の方がはるかに軽いと見ます。

2. 価格側面

価格の側面では原油値上げによる石油代金増加額のGNPに対する比率はOECD合計で前回2.72%、今回20ドル原油で1.1%であり、消費国の負担は前回の4割程度と軽くなります。

3. 景気局面の相違

前は列島改造論の直後で企業は手を拵げ過ぎて贅肉の多かった時であり、企業の設備投資、在庫投資が活発で高水準にあったためストック調整に長期間を要し、又景気拡大2年目でインフレ圧力が大きかったのに対し、今回は景気回復4年目でアメリカがすでに景気後退に入り、又日本の各企業は厳しい減量作戦で筋肉質に改造されており、更に過剰投資がみられずストック調整は軽くすむと考えられる。

4. 前回の教訓

前回の教訓が生きていて先進国は早めの政策発動をし、企業、消費者の慎重な対応がみられる。

以上の4点から今回は物価上昇率、景気後退の巾、調整期間のいずれをみてもミニショックにとどまると見ます。

- ④ 今回の原油値上げにより政策当局は、金融政策の段階的強化策と財政支出削減及び原油消費節約の三位一体となった総合的需要管理政策を進めようとしています。

短期調整

昨年秋以降加速した景気は予想外に低い天井にぶつかり過熱気味になりましたが、第2次石油制約と総需要管理政策のもとで秋口にはピークを打って減速に転ずると見ます。昭和53年度の景気拡大の牽引車になった公共投資は財政抑制策により今後は減少が予想されること、個人消費は物価上昇と共に徐々に鈍化することとなり、又昭和53年度後半より急速に拡大した設備投資と、在庫投資は石油制約と需要管理政策のもとで下期には一服するとみます。実質GNP

は53年下期6%、54年上期6.4%と6%台を続けたが、54年下期は3.2%と減速が予想され、54年通期で5.4%とみます。55年の予想は在庫調整、設備投資鈍化で上期3.8%、下期は5.3%と回復に向い、55年通期で4%と予想されます。

石油価格上昇により上進を続ける卸売物価は今年末には前年比14%に達すると予想されます。しかし石油価格の転嫁一巡と景気の下降により年末には天井を打ち、明春以降に転じようとする見ます。又、消費者物価は年末には10%上昇となり、明年中には一服し、明年末には前年比5%ラインを下廻ると見ます。本年3月より赤字に転じた国際収支は4~6月、7~9月と赤字巾を拡大するが、今年下期には景気後退から均衡に向いて明年1~3月には黒字計上が予想されます。54年度は通期30億ドルの赤字となるが、55年度は36億ドルの黒字に回復すると見ます。景気・物価・国際収支ともに調整場面を迎えるが、約1年間の短期調整で終わると予想されます。

以上のように今回の石油制約はミニショックにとどまるものと観測されます。しかし石油問題は深く国際政治が関与しており中東情勢の行方は予断を許しません。又各国が石油値上げによりインフレ抑制のため必要以上の金融引締めからリセッションを深め、ひいては保護貿易強化から世界景気の調整を長引かせる可能性もあります。又OPECの余剰資金の再度拡大が予想されるが、このリサイクル如何で為替市場の動揺、国際金融システムの混乱の要因にもなりかねません。

- ① 世界経済は第1次石油ショックの後遺症を完治出来ないまま、第2次石油ショックを迎えました。世界システムの脆弱性に留意しつつ、前回の過度の経済政策の反省をふまえた慎重な政策運営が望まれます。

委員会報告

9月15日、16日郡山市で開催のローターアクト地区大会への参加奨励
 ローターアクト委員長 西海正一君
 本日の米山財団コイン協力は22,050円でした。ご協力に感謝申し上げます。
 米山奨学会委員長 張紹淵君

出席報告

本日の出席	会員数	71名	欠席者	秋野君、阿部(襄)君、早坂(徳)君、五十嵐(三)君、石原君、川村君、黒谷君、本山君、諸橋君、熨斗君、斎藤(利)君、笹原君、高橋(耕)君、高岸君、玉城君、手塚君、富樫君
	出席数	54名		
	出席率	76.06%		
前回の出席	前回出席率	78.87%	メア 1ツ クラブ	三井徹君一郡山西R.C 笹原君一仙台R.C 宮沢君、嶺岸君、鷺田君一鶴岡西R.C
	修正出席数	61名		
	確定出席率	85.92%		